

文章を読む10

前回の続きです。(t)は **石** は「石」か「右」。 **之** は「之」？



で、次の **辰** が問題です。これもよく出てくる字なので、ここで覚えてしましてほしいのですが、「段」という字です。まとめると「右之段」(「右のことについて」という意味)。次の **以** は何でしょう。その前に、その下の字はなぜ書いてないのでしょうか。

実は、このように下の字が全く空になってしまうのは、第10回(m)にも出てきました。「何卒 御慈悲之以思召」(なにとぞ、御慈悲の思し召しを以て)という部分ですが、実は「御慈悲」をかけてくれる方に対して敬意を表して改行(これを「平出」といいます)しているわけです。

すると、次の部分(u)も関係してくるようになります。(u)の最初は「御」。次の **憐** はよくわかりません。**憐** だけで何という字かを読み取るのは至難

の業で、その下の **愍** と合わせて「憐愍(れんびん)」という言葉を知っているかどうかが大変になります。江戸時代の願書関係の文書にはよく出てくる言葉です。「憐愍」ではないかという仮説を立てて、**憐** を見ると、「憐」でおかしくない、ということです。



(v)が「御憐愍」なので、(t)の最後の **以** は「以」でしょう。「御憐愍を以て」ということになります。

(v)はこれまでの復習です。一つだけ前回説明できなかった最後の字の **候** ですが、この崩し方が「様」のもっともよくある崩し方です。ここで覚えておいてください。さて、(v)はもう読めましたか。「被仰付被下置候様(仰せ付けられ下し置かれ候様)」ですね。「仰せ付けていただけるよう」くらいの意味でしょうか。

(w)は最初が「御」。次の **救** は、偏が「求」？と読めれば「救」とわかるのですが。最後の **程** は割とよく出てきますが、**程** が「禾」です。**玉** は「玉」とか読み取ればいいのですが、**程** で



「程」という字です。まとめると「御救之程(お救いの程)」となります。

